

梅



一茶の代表作『父の終焉日記』



アニメーション『父の終焉日記』



一茶逗留の離れ家

豊かな伝統と文化の継承。 一茶ゆかりの里たかやま

湯倉洞窟遺跡からは、縄文早期に埋葬された湯倉人が発見され、この地が七〇〇〇年もの昔から、豊かな暮らしと文化を営む里であったことを伝えていきます。

古代には高位牧が営まれ、中世には山田高梨氏が治め、駒場は關山國師の生誕の地といわれています。

近世には善光寺平と上州を結ぶ道の要衝として栄えるとともに、気候風土を活かした豊かな生活文化が息づきました。戦国の武将として知られる福島正則公が幕府によって所領没収となった後、高井郡と魚沼郡に扶持を与えられ、晩年を過ごしたのも高山村です。堀之内地区には福島氏の居館跡が残されています。

そうしたはるかに遠い昔から近代に至る、先人の歴史や生活文化の歩みを伝えてくれるのが、高山村歴史民俗資料館です。

館内には、湯倉洞窟遺跡や藤沢焼の関係資料をはじめとし、近世の人々の暮らしを物語る厩(うまや)や機織り、民俗文化資料などが展示されています。

文化財については、41頁をご覧ください。



湯倉洞窟遺跡



村の生活歴



高山村歴史民俗資料館

北信濃が生んだ俳人小林一茶。その晩年、一茶は高山の里に足繁く訪れ、多くの門人たちと交流を重ねました。門人の一人久保田春耕が提供した離れ家が今も残されているほか、一茶の代表作である『父の終焉日記』、『花春帖 浅黄空』、『筆記 俳諧守抄 録』原本など数多くの貴重な遺墨が伝わります。また村内の各所に、一茶の句碑が建てられており、文字とあり「一茶ゆかりの里」の風情を色濃く残しているふるさとです。

紫地区にある「茶ゆかりの里」茶館は、そうしたふれあいの歴史を保存するとともに、小林一茶研究の拠点として設けられている施設。多くの一茶ファンや俳句愛好家が訪れ、俳句を通じた文化交流も盛んです。

毎年行われている一茶ゆかりの里俳句大会には、全国から多くの参加があります。一茶を学ぶ会や、小・中学生俳句大会といったイベントも行われ、「一茶館」には投句箱も設けられています。あなたも、楽しい俳句の世界を体感してみませんか。

ここは俳人一茶ゆかりのふるさとです。



扇面額(文化5年)
『名月の 御覧の通り 扇家哉』



付木



一茶ゆかりの里 一茶館
模型と映像を駆使した映像小劇場『一茶・こころの旅』やアニメーション『父の終焉日記』などで人間小林一茶を紹介。貴重な遺墨なども見ることができます。

建物は、最高裁判所などを手がけた岡田新一氏による設計。一茶の曲折した心情を異形ともいえる屋敷の形で表現しています。